

悩める人とそのご家族に、希望を。 株式会社グロービア

CLINIC BAMBOO

今日と明日の開業医をサポートする
——最新クリニック総合情報誌

ばんぼう

2010年
抜き刷り版

THE Family Doctor



Akira IWATA
岩田明
長久手南クリニック 院長



Nobutoshi KARIYA
仮屋暢聡
医療法人社団KARIYAまいんすたわーメンタルクリニック 院長

医療関連ビジネス最前線



株式会社グロービア



タレント
A・ウィッキー氏

名古屋フォレストクリニック
河野和彦 院長

フェルガード
Topics

ちかごろ



と感じたら…

今日をはっきりと、
明日をおだやかに。



栄養補助食品
フェルガード®
Feru-guard

<4タイプ> ●Newフェルガード ●フェルガード100M
●フェルガード100M 包接体 ●フェルガード100M 包接体ハーフ

『フェルガード』は、中・高齢の方々の、
“見る・聞く・おぼえる・考える” ——
知的な毎日の健康生活を維持するための
栄養補助食品。“米ぬか”から抽出された、
安心の天然ポリフェノール「フェルラ酸」
が主成分。ホームページでは、当食品に
関する豊富な知識・情報・経験を有する全
国の医療機関をご紹介します。

悩める人とそのご家族に、希望を。

株式会社グロービア

〒104-0041 東京都中央区新富1-19-2 ビリーヴ新富8F
TEL.03-5540-8975 FAX.03-5540-8976
<http://www.glovia.net/>

忘れない、 続ける。 フェルガード



ウィッキーさんも
続けています。



長久手南クリニック院長

岩田 明

介護者・他職種と対等の関係を築き 在宅医として認知症治療に尽力

愛知県北西部、「EXPO2005～愛・地球博」(愛知万博)の開催地としても知られる長久手町。2007年11月に開院した認知症専門診療所「長久手南クリニック」の岩田明院長は、脳外科医から在宅医に転身した異色の経歴の持ち主だ。トレードマークの赤いチェックシャツを纏い、認知症治療に挑み続けている。

撮影＝木村哲也
photo by Tetsuya Kimura

開業から1年で新患2200人超

認知症治療のスペシャリストとして 効果的な薬物療法を実施

名古屋フォレストクリニック

キャリアを重んじてからの開業が
患者・家族からの信頼を得る

2009年7月、名古屋市のなかで近年最も人口が増加している緑区に、全国でも珍しい認知症専門診療所、名古屋フォレストクリニックが開院した。

同院の河野和彦院長は、30年近いキャリアのほとんどを認知症の診断と治療に充ててきたスペシャリスト



認知症治療のスペシャリストとして、全国的な診療体制の強化に尽力する河野和彦院長

であり、愛知県下の病院に勤務していた頃は、救いを求める患者と家族が全国各地から訪れた。しかし、年々患者が増加するとともに、重度の患者が「置き去り」にされる現実と直面し、開業を決意。全国の患者と家族に配慮して中部国際空港やJR東海道線からのアクセスが良いJR南大高駅に程近い好立地を選定し、「老年精神科、神経内科、漢方内科」という特徴的な診療科目を掲げて専門性を全面に打ち出した。こういった河野院長の「読み」は見事の中ずる。開業前から約1000人もの予約があり、認知症に特化した診療に確かな手ごたえを感じたという。

レビー小体型やピック病の治療にも力を注ぐ

現在は北海道から沖縄、そして海外はフランスからも患者が来院。開

業から1年で新患は2200人超にのぼる。河野院長は患者や家族が納得のいく診療を目指し、マルチスライストによる画像診断や副作用の少ない処方せんを導入。マルチスライストで脳の状態を確認したうえで、治療方針を決定する。河野院長が「薬の種類よりも用量が大事」という「処方哲学」から考案した薬物療法「コウノメソッド」は、レビー小体型認知症やピック病の改善効果も確認されており、全国40人の実践医と連携し、遠隔地の患者のフォローに努めている。

また、同院は「安らぎ・信頼・希望」をモットーに、介護に疲れた患者・家族を癒しのアメニティーで迎え、河野院長が自信に満ちた笑顔で迎える。診療以外にも、全国各地で



米ぬか由来のサプリメント「フェルガード」を併用した、独自の認知症薬物療法「コウノメソッド」で治療

の講演会や「認知症ブログ」を通じての情報発信など、介護者のケアにも余念がない。

「51歳での開業だが、完全なスペシャリストになってからの開業だからこそ、良好なアウトカムが得られ、患者や家族との信頼関係が構築できた」と、河野院長は胸を張る。今後は同じ領域を志す後輩医師の育成、「認知症診療学会」設立などを視野に、認知症診療体制の強化に尽力する構えだ。



Clinic Data

診療内容: 老年精神科、神経内科、漢方内科
住所: 愛知県名古屋市長区大高町字小黒見山15-11
URL: <http://www.forest-cl.jp/>
ドクターコウノの認知症ブログ: <http://dr-kono.blogzine.jp/>



尊敬する河野和彦医師の著書や臨床データを待合スペースに備え、認知症の正しい知識を啓発



“癒し”をコンセプトにしたログハウス調の佇まい。冬場は待合スペースの暖炉を囲んで皆と語り合う



家族や施設職員ら付き添いの介護者に、患者の症状や処方せんについて説明しながらコミュニケーションを図る



午後になると慌ただしく車に乗り込み、往診に向かう



正しい診断と適切な治療を行うため、マルチスライスCTで患者の状態を確認



1日の終わりには介護者やケアマネジャーからのメールやFAXに目を通し、どんな些細な報告も必ずチェック



いわた・あきら

- 愛知県名古屋市出身
- 1989年 名古屋市立大学医学部卒業
- 1989年 名古屋市立大学附属病院麻酔科研修
- 1989年 清都市民病院脳神経外科
- 1992年 掛川市立総合病院脳神経外科
- 1995年 名古屋市立大学脳神経外科助手
- 1999年 ベンシルベニア大学脳神経外科(頭部外傷修復センター)
- 2005年 医療法人大真会大隈病院往診医
- 2006年 南医療生活協同組合かなめ病院 内科
- 2007年 長久手南クリニック開業

■資格
日本脳神経外科学会専門医

PERSONAL DATA

- 家族
妻、娘3人
- 趣味
釣り(海、溪流)

Clinic DATA



■所在地
愛知県愛知郡長久手町長湫市ヶ洞 72-3
TEL : 0561-64-5667
URL : <http://web.mac.com/nagakutezaitaku/>
■診療科目 脳神経外科、内科(認知症外来) / 在宅医療(在宅療養支援診療所)

当院を開業して約3年、午前中は外来、午後はほぼ毎日、患者さん宅に往診に出かけています。往診先も年々増加し、現在は約120件になりました。
在宅医療では、ご家族や看護・介護スタッフらとの連携が最も重

在宅医療には、医療・介護の連携が不可欠。開業後は地域でのネットワークづくりに力を注ぎ、勉強会を通じて、認知症に関する正しい知識の啓発にも努めている。

医療と介護の垣根を取り払い、知識と情報の共有を目指す

認知症治療の面白さに惹かれ、開業を決意した時、河野先生から「本気で開業したら患者は来るぞ!」と言われました。実際、2007年11月の開業と同時に往診件数は80件となり、改めてその言葉の重みを実感したものです。
医療と介護の垣根を取り払い、知識と情報の共有を目指す

要です。皆が知識と情報を共有できるよう、報・連・相を徹底させ、定期的に「在宅ケア勉強会」も開いています。私が往診に行けない時、患者さんの変化に気づいてあげられるのは、やはり身近にいる介護者ですからね。
在宅医としてご家族や他職種らとかかわるようになり、医師は「先生様」ではなく、チームの一員だということを感じました。それが自分にはできない役割を担っていることを理解し、お互いに尊敬し合える関係を望んでいます。私は「医師」の敷居を下げ、対等の関係を築くために白衣を脱ぎました。今は赤いチェックシャツが私の「戦闘服」です(笑)。医療と介護の垣根を取り去り、同じ目線で動くことが充実感や達成感につながるのではないのでしょうか。

認知症患者が増加の一途をたどっているにもかかわらず、治療ができる専門医が不足しています。今後は河野先生のように、後輩医師の育成にも力を注いでいきたいと考えています。脳外科医としての実績をすべて捨て、ゼロからスタートしましたが、私は一生このスタイルを貫き通す覚悟です。

緊急手術で患者さんの命を救う、ダイナミックかつ緻密な医療技術に憧れて脳外科医を志しました。何といつても脳外科医は花形存在でしたからね(笑)。大病院や民間病院で約10年間、臨床経験を積み、その後アメリカの病院で約6年半、先端医療の研究に取り組みました。
転機が訪れたのは5年前。アメ

リカから帰国後、縁あって名古屋市内の病院に往診医として勤務していた時、認知症の知識を習得するたため認知症専門医として知られる河野和彦先生(現・名古屋フォレストクリニック院長)講演の「認知症セミナー」に参加したことで、人生が大きく変わりました。
河野先生が考案された、米ぬか由来の健康補助食品「フェルガード」を併用した認知症薬物療法「コウノメソッド」に感銘し、すぐに河野先生にお願いで各症例の見分け方から投薬までご指導いただきました。

「脳」はもともと専門分野でしたが、脳神経外科と神経内科では症状に関する所見がまったく異なっていました。認知症について深く学んでいくうちに、これまで見逃

緊急性手術で患者さんの命を救う、ダイナミックかつ緻密な医療技術に憧れて脳外科医を志しました。何といつても脳外科医は花形存在でしたからね(笑)。大病院や民間病院で約10年間、臨床経験を積み、その後アメリカの病院で約6年半、先端医療の研究に取り組みました。
転機が訪れたのは5年前。アメ

かつて脳外科医として実績を重ねた岩田院長。その研究や論文はアメリカでも高く評価された。帰国後、一人の医師との出会いによって、人生が大きく変わっていく。

認知症薬物療法に感銘を受け、脳外科医から在宅医に転身

株式会社グロービア ▶ サプリメント

認知症への効果に高まる期待 200を超える医療機関が導入

超高齢社会を迎え、潜在患者も含めて国内に200〜300万人の患者がいるともいわれる認知症。治療法や医薬品の研究が進むなか、株式会社グロービア（本社：東京都中央区、村瀬仁章代表取締役）は、認知症を対象とするサプリメント「フェルガード」を開発した。認知症の原因の一つとされるβアミロイドの凝集を抑制するフェルラ酸を活用した同サプリメントを導入する医療機関が、診療所を中心に増えている。

認知症に取り組む病院での 治験で効果が判明

株式会社グロービアの創業は2003年。村瀬仁章代表取締役は大学卒業後、商社に就職し、食料関係の部署に配属された。そのなかで健康食品を扱うようになったが、なかには効果が不明確な商品もあり、「本当に良いものを提供したい」との思いで同社を創設していました。慢性疾患などを抱え、わらにもすがら思いで商品を購入される高齢のお客様もいらつ

しやだったので、自信をもっておすすめできないものを提供することは許されないと感じていたんです」と、村瀬代表取締役は振り返る。

独立してからは、体内の添加物等を吸収するなど、薬用炭を応用した商品を開発・販売していたが、なかなか普及しなかった。こうしたなか06年に、フェルラ酸にガーデンアンゼリカを加え、認知症に効果のある商品「フェルガード」の日本での販売を試みていた韓国人と日本国内代理店の担当者との出会った。フェルラ酸とガーデンアンゼリカの関係につい



「今後も研究を続けて、より製品を改善していきたい」と話す村瀬仁章代表取締役

て、韓国で集めたデータを見せられたが、「本当に良いもの」にこだわる村瀬代表取締役は日本国内でのデータ収集を考え、その代理店の担当者と治験を受けてくれる医療機関を探した。その結果、認知症に早くから取り組んでいる医療機

関の協力が得られ、半年間の治験で非常に良い結果が出たことから、「ニューフェルガード」として販売活動を本格的に展開した。

しかし、認知症患者に試用するなかで、興奮の強いアルツハイマー型・レビー小体型認知症患者やビツク病の患者には若干、効果が強く現れる傾向が判明。原因がガーデンアンゼリカの配合にある可能性が強かったことから、配合量を今までの1/2にした「フェルガード100」「フェルガード100M」の開発に取り組むことになる。その頃から従前の製品にこだわる韓



固い握手を交わす村瀬代表取締役とA.ウィッキー氏。フェルガードの服用がきっかけで親交を深めた



「ニューフェルガード」は1万500円、「フェルガード100M」は6,300円（いずれも税込み）。1日に朝夕1包ずつ使用する

国の企業と意見が折り合わなくなり、村瀬代表取締役独自で研究にこそしんだ。

「ずっと一緒に取り組んできたので別れはつらかったんですが、患者さんのためになるものをつくり続けるという当社の理念を貫きたかったんです」（村瀬代表取締役）

βアミロイド凝集抑制に効果 症状によって製品を使い分け

同製品の主成分であるフェルラ酸はポリフェノールの一種で、米ぬかから抽出されるもの。認知症のなかでも多く見られるアルツハイマー型は、βアミロイドが脳に蓄積され凝集すると毒性に変わり

発症するといわれているが、このフェルラ酸に、βアミロイドの凝集を抑制する効果があると考えられている。

また、愛知県の名古屋フォレストクリニックでも治験の協力が得られ、認知症患者を専門的に診ている同院の河野和彦院長がほかの認知症に試したところ効果が見られたため、現在は認知症全般に使用されている。認知症を専門的に診る医療機関で効果が得られたこともあり、村瀬代表取締役は自信を見せる。「効果は、どの段階でも見られますが、やはり軽度のほうが大きいことがわかっています」

なお、認知症には多様な症状があるが、「ニューフェルガード」は

導入事例

末期でも重症でも認知症患者に効果 名古屋フォレストクリニック



河野和彦院長

村瀬代表取締役と2007年に会い、フェルガードの治験を行った愛知県の名古屋フォレストクリニックの河野和彦院長。認知症薬療法マニュアルとして自身で作成し、高い評価を得ている「コウノメソッド」でも、フェルガードの使用法などについて触れている。

「70%の確率で効くという感じでしょうか。驚くのは、末期でも重症でも効く人がいるということ。どんな大脳疾患にも効果があると思っています。医師への説明や、一般市民へのセミナー開催などを通じて、同製品を紹介しています」と、河野院長はグロービアの製品に絶大な信頼を寄せる。

その一方で、河野院長は「ニューフェルガードが効かない30%の人をどうするのか」と、課題も指摘。「同社では、別の商品を開発すると聞いているので期待しています。併せて、社会に対して認知症の知識を普及することにも尽力してほしいと思います」と、エールを送る。

無表情になるなどうつ状態の患者に、「フェルガード100M」は興奮状態にある患者に使用すると、より高い効果が得られる。

「アリセプトを処方するしかない状況で、『何かほかにできることはないか』ということ導入されるケースが増えていきます。サプリメントですから、一般の人でも購入することができず。ワンポイント英会話でおなじみのA・ウィック

キーさんにもご愛用いただいています」と話す村瀬代表取締役。取材に同席したウィッキー氏も「初期の認知症と疑われるほどでした

が、すぐに回復しました。感謝しています」と笑顔で語る。

現在、診療所を中心に約200の医療機関が導入している。河野院長が一般の人や医療機関を対象に認知症セミナーを開催し、フェルガードの説明をすることで徐々に販売数も伸ばしている。

課題はアルツハイマー型以外の認知症に対して、なぜ効果が得られているかが明らかになっていないこと。村瀬代表取締役は「研究を進めていく」と意気込む。増加の一途をたどる認知症患者の対策に、今後同社は貢献していくはずだ。



医療法人社団KARIYAまいんずたわーメンタルクリニック院長

仮屋暢聡

高層ビルの地下に異空間を創出し 新しい精神科医療の“形”を発信

再開発が進むJR新宿駅南口で、新しい精神科医療のあり方を発信するまいんずたわーメンタルクリニックの仮屋暢聡院長。
医療機関の範疇を超えた斬新な内装や、企業や地域にアプローチする新しい試み、いったん担当した患者は入院しても支える責任感の強さなど、仮屋院長のユニークな人柄と温かい診療姿勢を頼り、多くの患者が来院する。

撮影＝羽切利夫
photo by Toshio Hagiri

信頼できる医師との出会いが 認知症に対する不安を軽減

超高齢社会に入り、認知症に対する不安が高まっている。かつて朝のテレビ番組で一世を風靡したA・ウィッキー氏もその一人だ。2009年、認知症への不安から、独自の薬物療法を実践している名古屋フォレストクリニックの河野和彦院長のもとで、相談・受診。認知症ではないことが判明したものの、改めて「早期発見・早期治療の重要性を認識した」と話す。そんなA・ウィッキー氏に河野院長との出会いから、認知症の不安を軽減するまでのエピソードを聞いた。



Anton Wicky

アントン・ウィッキー ●セイロン(現スリランカ)生まれ。国立セイロン大学卒業。文部省(当時)の国費留学生として来日後、日本テレビ「ズームイン!!朝!」内の「ウィッキーさんのワンポイント英会話」を担当し、人気を博す。現在は島根県立大学客員教授として教壇に立つほか、各地の企業や学校で英会話の指導や講演活動を行う

物忘れや無気力などから 認知症を心配し受診を決意

—はじめに、河野和彦院長と出会ったきっかけを教えてください。

初めてお会いしたのは昨年。当時、物忘れがひどくなり、目覚めも悪く、気力が低下して口数も少なくなっていました。最初は年齢のせいだと思っていたのですが、話好きの私が急に無口になったことを妻が気にするようになりました。そのうち、私自身も「認知症の初期症状では？」と考えるようになり、近くの病院に行くことを決意したのです。実は、03年にクモ膜下出血で前頭葉を切除する手術を受けており、物忘れなどの症状がひどくなったのはその影響もあるのではという不安もありました。検査を受けたところ、「現状では問題ない」と言われたのですが、セカンドオピニオンとして、認知症の治療を行う老年科外来がある名古屋の病院を訪れたのです。そこで診療していただいたのが河野和彦先生でした。

—どんなアドバイスをいただいたのでしょうか？

診察では手術と物忘れの症状は直接関係ないことを説明されるとともに、「認知症ではない」と太鼓判を押してくれました。きちんと話を聞いてくれるだけでなく、真摯な態度

で説明をしてくれたので、とても安心できました。「問題ない」という言葉に安堵しながらも、「いつか認知症になるのでは

ないか」という不安がぬぐえなかつたので、それを河野先生に話したところ、雑談のなかですすめてくださったのが「米ぬか脳活性食」。指示された分量のみ始めたところ、目覚めのよい朝を迎えられるようになったのです。髪の毛の艶もよくなり、物忘れの回数も減ってきました。今では、仕事の前など、頭をすっきりさせたい時などにとるようにしています。

—信頼できる医師との出会いが、認知症への不安の軽減につながっているわけですね。

そのとおりです。私の場合、家族が不調に気づいてくれたことから早期の受診につながりました。その時に、親身に相談に乗ってくれて適切なアドバイスを送ってくれる、「信頼できる医師」と出会えたことが、不安に解消につながっています。認知症かもしれないと意識した時に、すぐに行動すること、信頼できる医師を見つけることの大切さをつくづく実感しました。「認知症かもしれない」と不安を抱えている方はたくさんいると思います。認知症に詳しい、信頼できる医師が少しでも増えたらいいですね。



←ウィッキー氏が愛用する
米ぬか脳活性食「フェルガード」



かりや・のぶとし

鹿児島県始良市出身
 1985年 鹿児島大学医学部卒業
 1990年 東京都立松沢病院医員
 1997年 東京都立中部総合精神保健福祉センター医療科医長
 2002年 東京都健康局(現・福祉保健局)医療サービス部精神保健福祉課長
 2005年 まいんずたわーメンタルクリニック 開業
 2009年 医療法人社団KARIYA理事長

■資格・役職
 日本精神神経学会精神科専門医
 社団法人センコロ監事
 社会福祉法人東京コロニー評議員

PERSONAL DATA

■家族
 妻、長男、長女の4人家族。妻と長男は同院職員
 ■趣味
 ゴルフ。「足腰の強化のために、週に1回は自宅近所のゴルフ場に通っています」

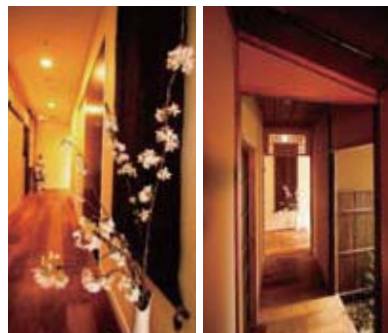
Clinic DATA



■所在地
 東京都渋谷区代々木2-1-1
 新宿マインズタワー B1
 TEL : 03-5302-5288
 URL : http://www.mmc-mcc.com/mmc/index.html
 ■診療科目 精神科、内科



待合室でスタッフとミーティング。蒸気の出る水槽は患者の癒しになる

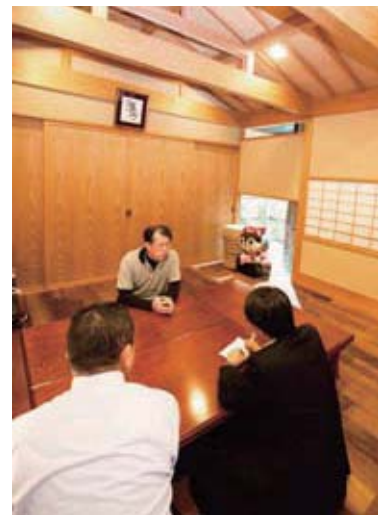


日本家屋の趣を存分に感じさせる廊下。花瓶に生けた花は、季節に合わせて入れ替える



フェルガードを販売する株式会社グロービアの村瀬仁章代表取締役と

茶室で患者に点滴をする。茶室は床の間を備えた本格的なもので、仮院長の妻がお茶を点てることも



“道場”と名づけたカウンセリングルーム。高い天井には梁がむき出しで、いかにも日本家屋らしい雰囲気



うつやアルコール依存症をテーマにした書籍でも、新しい精神科医療のスタイルを発信する

老舗旅館と見間違う院内
 茶室や板敷きの広間で
 ゆったりとカウンセリング

クリニックのドアを開けると、そこは別世界だった。和のテイストを存分にちりばめた院内は茶室や中庭もあり、まるで老舗旅館のよう。ここが新宿高層ビル群の地下1階であることを忘れてしまおう。

東京都健康局の精神保健福祉課長時代に、都内の医療機関を見学しました。多くの施設がいかにも「病院らしい造りで、「もし、自分が開業したら、生活感のある内装にしたい」と思っていました。精神疾患を抱えた患者さんにとって、無機質な空間は心地よいものではありません。治療の効果も上げるためにも、院内の環境整備は大切です。

当院は古い日本家屋の面影を再現しました。茶室は病床の代わりで、畳の上でリラクゼーションした状態で点滴を受けてもらいます。会社帰りに受診するうつ病の患者さんから、「点滴で楽になった」と喜んでもらっています。「道場」と名づ

勤める会社員はまじめな方が多く、皆さん頑張り過ぎてしまう。本人も職場の上司も、どのように対応すればいいのかわからず、困り果てて来院するケースが急激に増えてきました。症状が悪化する前に企業健診で予防を図ろうと、株式会社を立ち上げてプログラムを開発している最中です。従来の産業医では有効に対処できなかった「職場におけるひきこもり」にも、アプローチを図りたい。

また、看護師を雇い、訪問看護による地域へのアプローチも始めました。単身世帯の高齢患者さんは生活リズムが崩れていたり、治療の途中でドロップアウトしてしまう傾向が強い。そういった患者さんに有効な治療を提供しようと、訪問看護ステーションを立ち上げる準備も進めています。ステー

けた12畳ほどの広間は、カウンセリングルームと治療室を兼ねています。患者さんのご家族や会社の上司の方と、板敷きの床にゆったりと座って面談します。

待合室のタペストリーは妻が季節に合わせてかけ替えます。靴箱の上や廊下の壁など、いたるところに飾った一輪挿しも妻が選んでいます。子どものころは建築家になりましたかったので、デザインにはこだわりました。新宿という街から、既存の概念を超えた精神科医療の形を発信したかったのです。

うつ病を予防しようとして
 新しい健診プログラムを開発
 訪問看護で地域にアプローチ

朝が苦手な患者の多い精神疾患の特性とオフィス街の立地を踏まえ、診療は午後1時半に始まり、8時半まで続く。1日の患者数は50〜60人で、うつ病やストレス障害が8割を占める。

うつ病は「心が弱い」とか「気が小さい」といった性格の問題ではなく、疾患です。当院周辺の企業に

シヨンは、社会的ひきこもりなど医療にアクセスしづらい人の支援にも乗り出します。

うつ病以外に認知症の患者さんも全国から来院されます。認知症の患者さんに対して健康補助食品「フェルガード」をすすめています。認知機能が向上する効果に驚きました。「ご家族からも言葉の数が増えた」、「介護がしやすくなった」と喜ばれています。

重症の患者さんは当院近隣のJR東京総合病院や、自宅近くの稲城台病院に入院してもらい、週に2回は治療に通っています。私を信頼して来てくれた患者さんは、可能な限り自分で診るのが方針。患者さんのためになることは、何でもやりたい。「おかげ様で職場に復帰できました」との一言が、一番のねぎらいです。